

5 公用文作成の考え方（建議）

（令和4年1月7日文化審議会）

前書き

文化審議会は、これからの時代にふさわしい公用文作成の手引とするために「公用文作成の考え方」をここに示すこととした。

昭和26年に当時の国語審議会が建議した「公用文作成の要領」は、翌27年に内閣官房長官依命通知別紙として各省庁に周知されてから約70年を経ている。基本となる考え方は現代にも生きているものの、内容のうちに公用文における実態や社会状況との食い違いがあることも指摘されてきた。

こうした状況を踏まえ、文化審議会国語分科会は同要領の見直しについて検討し、「新しい「公用文作成の要領」に向けて」（令和3年3月12日）を報告した。以下に示す「公用文作成の考え方」は、国語分科会報告に基づき、「公用文作成の要領」が示してきた理念を生かしつつ、それに代えて政府内で活用されることを目指し取りまとめたものである。

これは、法令や告示・通知等に用いられてきた公用文の書き表し方の原則が、今後とも適切に適用されることを目指している。それとともに、各府省庁等が作成する多様な文書それぞれの目的や種類に対応するよう、公用文に関する既存のルール、慣用及び実態に基づき、表記、用語、文章の在り方等に関して留意点をまとめたものである。

基本的な考え方

1 公用文作成の在り方

(1) 読み手とのコミュニケーションとして捉える

ア 読み手に理解され、信頼され、行動の指針とされる文書を作成する。

イ 多様化する読み手に対応する。広く一般に向けた文書では、義務教育で学ぶ範囲の知識で理解できるように書くよう努める。

ウ 地方公共団体や民間の組織によって活用されることを意識する。

エ 解説・広報等では、より親しみやすい表記を用いてもよい。

オ 有効な手段・媒体を選択し、読み手にとっての利便性に配慮する。

あ

あ 亜(亞)〔ア〕 例亜流、亜麻、亜鉛、亜寒帯、亜熱帯、亜硫酸
 ああ ああ(嗚呼・噫) 例～悲しい。
 あい 哀〔アイ^{あわれ・あわれむ}〕 例哀感、哀愁、哀願、哀悼、悲哀
 あい 挨〔アイ〕 例挨拶
 あい 愛⁴〔アイ〕 例愛情、愛読、愛惜、親愛、恋愛、愛する人、母の愛 *愛媛県(えひめけん)
 あい 曖〔アイ〕 例曖昧
 あい… 相… 文相… 例～戒める。
 あい 藍 例青は～より出(い)でて～より青し。
 あいあいがさ 相合い傘 文相合い傘 例～の二人連れ。
 あいいれない 相いれない<相容れない>
 あいいろ 藍色 例～の着物。
 あいうち 相打ち 例剣道の試合で両者～となる。
 あいうち 相打ち 例力を尽くして戦ったが結局～となった。
 あいうち 相撃ち 例ピストルで撃ち合い～となる。
 注新聞では、「相打ち・相撃ち」は、「相打ち」と書く。
 あいかぎ 合い鍵 文合い鍵

あいかわらず 相変わらず 文相変わらず 例～忙しい。～元気だ。
 あいかん 哀歓 例～を共にする。
 あいがん 哀願 例今度だけは見逃してくれと～する。
 あいがん 愛玩 例～動物。
 あいぎ 合い着・合着<間着>
 あいきどう 合気道 文合気道
 あいきょう 愛きょう<愛敬・愛嬌> 例～を振りまく。～のない人。
 あいくち あいくち<合口・匕首> 文あいくち ⇒短刀 例～を突き付けて脅す。
 注法令では、「匕首」は用いない。「あいくち」を用いる。
 あいくるしい 愛くるしい 例～目をした犬。
 あいけん 愛犬 例～と散歩をする。
 あいご 愛護 例動物の～。
 あいことなる 相異なる 例～考え。
 あいことば 合い言葉
 あいさつ 挨拶 文挨拶 例会長の～。丁寧～にする。
 あいしゅう 哀愁 例～の感が漂う。～を帯びた歌声。
 あいしょう 相性<合性> 文相性 例～が良い人と結婚する。
 注新聞では、「相性」と書く。
 あいしょう 愛唱<愛誦> 例～歌。
 あいしょう 愛称 例～の募集。
 あいじょう 愛情 例両親の～に育まれてすくすくと育つ。

ざぜん 座禅^ㄨ(坐禅) ㉠～を組む。
 さぞ さぞ(無) ㉠～暑いだろう。
 さそい 誘い ㉠誘い ㉠～に乗る。
 さそいあう 誘い合う ㉠互いに誘い合って行く。
 さそいだす 誘い出す
 さそいみず 誘い水 ㉠誘い水
 ㉠～を差す。景気回復の～。
 さそう 誘う ㉠誘う ㉠友人を～。
 さぞう 座像^ㄨ(坐像)
 さぞかし さぞかし^ㄨ(無かし) ⇒ さぞや ㉠～お喜びでしょう。
 さた 沙汰 ㉠沙汰 ㉠何の～もない。
 さだかだ 定かだ ㉠定かだ ㉠原因は定かでない。
 さだまり 定まり ㉠定まり ㉠お～のコース。
 さだまる 定まる ㉠定まる ㉠位

置が～。

さだめ 定め ㉠定め ㉠～に従う。
 世の～と思えば致し方がない。
 さだめし 定めし・さだめし ㉠定めし ㉠～嫌だったろうと思う。
 さだめて 定めて・さだめて ㉠定めて
 さだめる 定める ㉠定める ㉠規則を～。
 さたん 左たん^ㄨ(左袒) ⇒加勢すること・味方をする事
 さだん 座談 ㉠～の形式。～会。
 さち 幸 ㉠海の～、山の～。～多かれと切に祈る。
 さつ 早¹〔ソウ・サツ〕
 はやい・はやまる・はやめる〕
 ㉠早速、早急 ㉠早乙女(さおとめ)、早苗(さなえ)
 さつ 冊⁶〔サツ・サク〕 ㉠冊数、別冊、書冊、分冊、大冊、小冊子

「異字同訓」の漢字の使い分け

さす

【差す】 挟み込む。かざす。注ぐ。生じる。

腰に刀を差す。抜き差ししない状況にある。傘を差す。日が差す。
 目薬を差す。差しつ差されつ。顔に赤みが差す。嫌気が差す。魔が差す。

【指す】 方向・事物などを明らかに示す。

目的地を指して進む。名指しをする。授業中に何度も指された。指し示す。

【刺す】 とがった物を突き入れる。刺激を与える。野球でアウトにする。

針を刺す。蜂に刺される。串刺しにする。鼻を刺す嫌な臭い。
 本塁で刺される。

【挿す】 細長い物の中に入れる。

花瓶に花を挿す。髪にかんざしを挿す。一輪挿し。

(平成26年文化審議会国語分科会)